

おかやまのちよっぴい話

シリーズ 29

我が家のスーパーマン

先日、青地に赤い「S」の字が描かれた、お馴染みの「スーパーマンTシャツ」をネットショッピングで見かけました。離れて暮らす大学3年生の息子に、送ったら着るか確認したところ、意外にもまんざらでもない返事。ファッションにこだわりがあるタイプなのですが、三つ子の魂百までというのでしょうか、青色Tシャツは今も身近な存在なのかなと思

ました。また、息子のイニシャルがSだったのも都合でした。たくましく育ってほしい願いは裏腹に、現実には複雑でした。息子が2歳半の頃、大型犬がじゃれて、覆いかぶさるような状態で倒されたことがトラウマになり、犬を怖がるように。

3歳になったある日、街中で飼いに連れられて散歩しているチワワを見て「怖い、食べられちゃう」と抱っこをせがんできた時には、目が点になってしまいました。今でこそ笑い話ですが、当の本人はいたって真剣でした。またある時、公園で友達からバツタを手渡されそうになり、慌ててポケットティッシュを取り出して、受け取ろうとしたことでも周囲を驚かせました。

時々、怖がりの一面をのぞかせる息子でしたが、スーパーマンTシャツは好んでいました。いつからか、



ここの一番の時にはマイバッグからマントを引っ張り出して、羽織るようになり、注目を集めることもしばしば。彼なりにスイッチが入っていたのかもしれない。

幼稚園に通い始めてからは、頼もしく感じる場面もありました。娘、息子、私の順に5mから6mの間隔で縦に並び、歩いて帰宅していた時のことです。先頭の娘が近所の一つ年上の男の子に「こんにちは」と挨拶したところ、意地の良くない言葉が返ってきたようでした。娘は気にかけることなく家の中へ。その様子を見ていた息子は「そんな事を言っちゃあいけないんだよ」「ねえ、お母さん!」と4歳上をいさめて、私に同意を求めてきたのです。親が近くにいたからできたことかも知れませんが、5歳の子どもが言えることではないと、我が子ながら見直しました。普段は頼りなげな息子が、この日は心強く思えました。



「親は子に育てられる」「育児は育自」などと言われます。私も子育て25年生になり、成長させてもらい、随分と気が長くなったように思います。息子には「お姉ちゃんを守ってあげてね」と繰り返してきた甲斐あって、親の欲目かもしれませんが、正義感が強く、優しく穏やかな性格に育ってくれました。今では家族の中でもっとも大人な対応をしてくれる、我が家のスーパーマンです。

子供を育てると同時に、自分たち自らを**進歩**させないならば親は子供をりっぱに育てることができない。**アラン**

子供を育てながら、親も進歩していく。そういう親になりたいですね。

葬儀・法要・ギフト

あなたのアーバンホール
アーバンホール